

## 平成29年度 山梨県果樹試験場機関評価結果

### 1 評価委員名

高梨 祐明 (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
果樹茶業研究部門 企画管理部長)

小澤 博 (山梨県果樹園芸会 会長)

鈴木 忠 (日本園芸農業協同組合連合会 専務理事 )

奥田 徹 (山梨大学大学院 総合研究部附属ワイン科学研究センター長)

中沢 弘 (巨摩野農業協同組合 営農指導部長)

### 2 評価実施日

平成30年1月25日

### 3 評価の具体的な評価点、指摘事項及び処置方法

(評価点の目安)

評価	良好	やや良好	普通	やや不十分	不十分
点数	5	4	3	2	1

果樹試験場機関評価表

果樹試験場機関評価委員会

評価項目	評価点	コメント
1 組織管理	5 / 5	限られた職員数の中で研究課題の重点化や運営の効率化を図り、生産現場に貢献する研究成果を十分に上げている。県の重要な産業を支える組織が縮小されることのないよう要員確保に努力を続けていただきたい。
2 事業内容及び予算配分	4 / 5	課題設定は妥当性が高く、予算確保においては柔軟性と迅速性のある対応が認められる。研究員のモチベーションの更なる高揚のため予算確保にさらに尽力して欲しい。
3 施設の整備状況	4 / 5	限られた予算の中、試験研究に必要な施設の維持・管理に尽力されているが、研究の高度化に遅れないよう、老朽化した施設の計画的な更新にも十分留意する必要がある。
4 研究事業の成果	5 / 5	常に現場ニーズ把握に務め、生産者と一体となった技術開発を行うなど、マーケット・イン的な研究開発を実践している。今後もこうしたことの継続が期待される。
5 普及啓発活動	5 / 5	見学者や技術相談に積極的に対応するとともに、成果発表会を定期的で開催し、研究成果の現場移転に努めている。今後もこうした姿勢を続けて欲しい。
総合評価	5 / 5	評価項目すべてが良好となっており、適正な組織運営がなされている。果樹は特に長期的視野が必要であるため、近視眼的な事象にとらわれず、重要な課題を熟考し、息の長い、効果の高い研究成果の創出に期待する。

「注」 評価点の目安

評価	良好	やや良好	普通	やや不十分	不十分
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置:

予算については、必要な研究費を確保するため、行政課題への対応や総合理工学研究費、国庫委託費等の活用を積極的に図っていく。  
施設・備品の老朽化については、計画的な修理・更新に向け、主幹課の農業技術課と協議していく。